

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901522		
法人名	有限会社 ライフサポート		
事業所名	グループホーム 愛あい		
所在地	旭川市川端町2条5丁目2番3号 (電話) 0166-53-9898		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月3日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】 (平成22年 1月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 18 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費17,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (1月14日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.3歳	最低	76歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むらい内科クリニック、神居歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に位置するホームは、閑静な町並みにとけ込んだバリアフリーの建物となっています。玄関ポーチがあり、悪天候の場合でも車が横付けでき利用者が安心して出入りできるようになっています。利用者がホームで安心して暮らすため、管理者が看護師資格を有しており、他にも非常勤や提携の看護師を確保し、利用者の通院同行や24時間の健康相談体制が整っています。運営者と管理者は協働して職員がゆったりと利用者に向かい合うことができる体制を整え、ホーム名にもなっている「和気あいあいと楽しく、ゆったりと暮らしていただけるよう」職員一丸となって取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題となったものについては職員で検討を行なっています。改善された項目もありますが、改善に向けて取り組み中のもので、課題を繰り越した部分があります。今回の自己評価でも取り上げ、改善に向けた取り組みを継続している状況です。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者と職員の一部で自己評価を行なっています。各項目に対しての取り組み状況の確認を行っています。前回の外部評価の課題の改善状況を検証し、残された課題の再確認を行なっています。職員全員での共有は外部評価後に予定されています。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、家族や民生委員、地域の学校などの参加があります。ホームの行事の後に実施するなど、参加しやすい工夫を行なっています。外部評価の結果や検討の報告を行ない、意見を求めています。行事の実施報告と家族からの感想・意見を受けるなど、ホームの運営の助言を受け、職員の励みとしながらサービスの質の向上に活かしています。今後は参加者の多様化や定期的な開催を目指し検討が重ねられています。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>なんでも話し合える関係作りを心がけ、意見を引き出しやすい雰囲気大切にしています。外部の対応機関の明示や、ホームの相談窓口があり家族会が組織されています。寄せられた意見等は迅速に対応し、結果について丁寧に説明をする仕組みがあります。また職員が内容を共有し、改善や再発防止に取り組むこととなっています。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、利用者とともに地域の一員として行事などに参加しています。ホーム前で開催される大学吹奏楽部の「あおぞらコンサート」に地域住民を招いたり、近隣学校のボランティアや実習生の受け入れ、小学生が見学を訪れるなど地域で認知されています。今後は運営推進会議などを通じて非常災害時の協力の要請などの取り組みが予定されています。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年の開設時に、ホームと地域とで利用者を支えていくための理念を定めています。ホームの名前の由来も基本理念の「和気あいあいと楽しく」からきており理念の実現を常に意識できるようにしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの基本理念とそれを実践するための4つの項目を定め、全員で共有しています。新人採用時に理念の説明と職員の考え方を話し合い、より深い理解と方針の共有を行っています。また、会議などの際にも理念に立ち返り話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、神社祭りや子供神輿、盆踊りなど、地域の行事に利用者とともに参加しています。毎年、ホームの前で教育大の吹奏楽部のコンサートを開き、地域住民と共に楽しんだり、日ごろから挨拶などを通じてご近所付き合いを行なっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、運営者、管理者と職員の一部でまとめられています。職員全員での共有と改善についての話し合いは外部評価結果について行なわれる予定となっています。	○	評価には全員で取り組むことが大切です。評価のねらいと活用方法を再確認し、評価の一連の過程に全職員が参加し、理解することによって質の確保や更なる向上に大きな効果が期待されます。

旭川市 グループホーム 愛あい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、外部評価の結果の検討や行事の報告、感染症予防などが議題として取り上げられています。ホームの行事と会議を組み合わせるなど、構成員が参加しやすいように工夫をおこなっています。参加者の拡大や定期開催に向け検討が行なわれています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームが適正な運営を行うために必要な連絡や情報収集を積極的に行っています。併設施設の運営や、共用型認知症対応型通所介護サービスで受け入れている地域からの利用者に関する相談なども含め日ごろから連携を取れるようにしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームからの便りを2ヶ月ごとに発送しています。利用者の暮らしぶりを写真とともに担当者が記載し、看護職員から健康状態の報告をしています。家族の来訪時の報告と、体調の変化があった場合には随時の連絡を行なっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部機関の窓口通知とホーム内の掲示を行なっています。ホームの担当者も明記し、相談等が寄せられた場合は迅速に対応するような体制があります。日ごろから家族との信頼関係作りを心がけ、何でも話しやすい雰囲気大切にしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動による弊害を理解し、異動を最小に抑えています。また、離職を防止するため、勤務体制や有休の消化など職員の希望を取り入れています。職員の配置を厚くし、「ゆったり」ケアができる環境を整えています。職員が交代する場合は引継ぎに時間を掛け利用者のダメージを防いでいます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度の活用を視野に入れ、ホームとしての職員育成の姿勢を職員に示しています。新人職員には1ヶ月程度全ての業務の実践的な研修を行なっています。職員会議などを通じて勉強会を行ったり、看護職員から看護の視点や知識を学ぶなど継続的な取り組みが行われています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に加盟し、勉強会への参加や情報収集を行なっています。職員の同業者との相互訪問や交流について、前回外部評価後に検討されていますが、実施には至っていません。現在は同法人の他サービスとの交流や連携体制が整えられつつあります。	○	同業者のネットワーク作りや職員同士の交流は、職員の育成やホームのサービスの向上に役立つ取り組みの一つです。同業者との交流については、かねてより職員の希望も高いことから実施に向けた具体的な取り組みが期待されます。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の見学をすすめ、ホームの雰囲気などを感じてもらったり説明を行なって理解を促しています。入居前から利用者の情報を集め、職員と検討しながら受け入れを行なっています。入居後も、家族の協力を得ながら徐々に馴染めるように支援を行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念である「和気あいあいと楽しく」を実践し、職員と利用者が一緒に生活することを大切にしています。生活歴の中から得意なことなどを把握し、活躍する場面を作ることによって楽しく、お互いに感謝しあいながら支えあっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向はコミュニケーションの中やしぐさや表情などの様子から職員が気づいた点を申し送りなどで共有し、検討を行なっています。申し送りノートなどに記録し、職員が確認印を押し把握をしながら日々の支援や介護計画の作成に活かしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、全職員が処遇会議の中で利用者の計画について検討を行なっています。家族の意向や担当職員の意見を反映させ介護計画を作成しています。平成22年4月より、常勤職員が計画作成担当者となることを受け、より利用者の意向や職員の気づきが反映した計画の作成を目指し準備が進められています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月ごとに行われています。毎月の処遇会議での検討と、半年ごとのモニタリングや年1回のケアチェック表の作成も併せ様々な角度から検討する仕組みがあります。前回外部評価でも課題となった日々の記録における計画との連動や、利用者のアセスメントの記録方法について見直しが予定されています。	○	介護計画の見直しには、変化がないように見える場合でも利用者や家族の意向を汲み取り、職員の気づきを盛り込みながら時々合った計画を作成することが大切です。そのための書式の整備や記載方法などの仕組み作りを通じてアセスメントやモニタリングを充実させていくことが期待されます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて図書館や買い物、お寺や神社へのお参りなどに出かけています。通院には看護師が付き添うなど、利用者や家族が地域とのつながりを持ちながら安心して過ごせるよう様々な支援を行っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する病院への通院はホームの看護師が付き添い、家族への報告と往診医との連携を行っています。専門病院での受診結果や往診医の診察、毎年の健康診断などから得た助言や情報を介護計画に反映し、日常的な健康管理に活かしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の見取りの指針を定め、家族に説明し同意を得ています。ホームとして看護職員の配置や、24時間対応できる外部の看護師の確保や往診医との調整をすすめ、必要な場合に連携を取れる体制を整えています。また、看護職による職員の研修も行われています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳については新人研修の中で取り上げ、ホームの理念と共にケアの基本として職員に浸透しています。個人情報の保護にも配慮し書類の保管も適切に行われています。また面会簿を単票にするなどの見直しが行われています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりの気持ちに寄り添い、生活のリズムや習慣を大切にしながらのケアを心がけています。ホームとして職員配置を厚くするなど、業務に流されないような体制を整え、希望に沿いながら支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の希望を取り入れた献立や、外食やホームの外で家族と一緒に食事をする機会を作るなど、変化を持たせています。畑で作った野菜が食卓に並んだり、下ごしらえを利用者と職員と一緒に行うなど、食べる喜びを大切にしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や回数は利用者の希望を取り入れて行うこととなっています。平均的に週2回の入浴を行っています。入浴拒否がある場合は声を掛けるタイミングなどを見計らい無理強いないようにしています。また、家族と一緒に入浴などにも対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りなどの作業は樽などを活用し車椅子でも対応できる高い位置にするなど、身体状況に合わせ無理なく色々な活動に参加できるように配慮を行っています。生活歴や趣味を把握し、一人ひとりに合わせた提案と支援を行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブがてらお弁当を作って外出したり、散歩やホームの前での外気浴など、閉じこもりがちなにならないようにしています。利用者の意向や体調も考慮し、買い物や図書館へ出かけたりしながら満遍なく外で過ごす機会を作っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の観点から、夜間は施錠を行っています。日中は見守りや職員の連携を密にし、鍵をかけないケアを実践しています。玄関にセンサーを設置し、外出の意向がある場合は一緒に出かけるようにしています。		

旭川市 グループホーム 愛あい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は職員と利用者が参加し、定期的を実施しています。非常持ち出し袋などを常備し、緊急事態に備えています。しかし、夜間想定訓練や全職員の参加、地域からの協力という面では今後の実施の検討がなされている段階となっています。	○	非常災害はいつ起こるか予測できません。昼夜を問わず職員が対応出来るよう全員で取り組む必要があります。訓練を通じ課題を把握し、併設施設や地域の協力を得ながら継続的に取り組むことが期待されます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかずは一日1000キロカロリー程度、主食の量で個別に調整を行い、水分は1000ccを目処にしています。美味しく、バランスの良い食事を心がけています。食事の摂取量や水分の量は個別に記録に残し、体調や医師の指示などに合わせて支援を行なっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者と地元学生と一緒に作った貼り絵などの作品が飾られています。家庭的な雰囲気、高い天井が開放的な雰囲気となっています。居間には小上りやソファなど思い思いに過ごせるように家具が配置され、窓からは菜園を望めるようになっており、季節を感じられるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い思いの家具や品物が配置され、一人ひとりに合わせて清潔に整えられています。畳スペースがあり、布団を敷いたり寛いだりすることができます。コンセントの位置や洗面台、空調換気扇の設置など、安全で使いやすい工夫がなされています。		

※ は、重点項目。